

広島大学大学院
放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム
第3回グローバルフィールドビジットを実施しました

平成27年7月1日（水）～2日（木）の日程で、第3回グローバルフィールドビジットを実施しました。今回のグローバルフィールドビジットは、緊急被ばく医療に関する実習に参加し、より深い実践力の学修を行うこと、また、大規模放射線災害発生直後の対応や中長期的な復興に向けた活動の現場を学習することを目的として実施し、学生・教職員の合計13名が参加しました。

1日午前には、福島県立医科大学放射線災害医療センターで実施された緊急被ばく医療実習に参加し、緊急処置を行う際の要点等を学修するとともに、放射線被ばく患者発生時を想定したサーベイ・除染・治療の実習を行いました。また、午後には、福島県立医科大学 - IAEA 共催の放射線災害医療と STS に関するワークショップに参加しました。

2日には、東京電力福島第一原子力発電所構内および福島第二原子力発電所構内と原子炉建屋内などの見学を行いました。第一原発では、緊急医療室、構内に設置された汚染水貯蔵タンク、4号炉燃料プールから使用済み燃料棒を回収する施設、多核種除去設備などについてバス車内から見学し、第二原発では、海水熱交換機建屋内の冷却系装置の津波被害状況について、また、4号機建屋内では、使用済み燃料プールオペレーティングフロアや原子炉格納容器内の見学を行いました。

学生からは、「今なお多くの困難の中で復興・復旧を行っている福島原子力発電所を見学する貴重な経験によって、復興には多角的なアプローチが不可欠であり、分野横断的の学修に一層励みたい」といったコメントがあり、参加者にとって非常に充実したグローバルフィールドビジットとなりました。



福島県立医科大学
緊急被ばく医療実習



福島第一原発
緊急医療室



福島第二原発
原子炉格納容器内